

経済産業省国際標準化事業「JIS規格に基づく溶接技能者の資格認証システムの東南アジア各国への導入と普及」を受託

一般社団法人 日本溶接協会

当協会ではアジア諸国における溶接技術・品質の向上と溶接界の発展のため 2004年に設立した AWF（アジア溶接連盟）を継続して支援しています。具体的実行計画の一つが AWF 各国への IS09606 に基づく溶接技能者認証システムの導入ですが、アジア諸国での IS09606 のニーズが小さいため、昨年の AWF 理事会にて IS09606 と並行して、当協会が日本で実施する JIS に基づく溶接技能者認証システムを希望する AWF 加盟国へ導入する方向で調整することとなりました。経済産業省では標準化を活用した事業戦略を推奨しており、東南アジア諸国に JIS に基づく溶接技能者認証制度を普及させることは溶接に関連する日本企業の競争力向上に結び付くことより、当協会が本事業の企画提案を行い本年 4 月に 2020 年度の事業として受託が決定しました。

本事業は東南アジア諸国に JIS に基づく溶接技能者認証制度を普及させる事業のフィージビリティースタディーを実施するもので、必要となる下記の項目を調査し、その結果により普及に向けたビジネスモデルを含む戦略を検討すると同時に、日本企業の競争力強化につなげる具体策を立案します。

- ①アジア諸国における JIS 溶接技能者認証システムのニーズ
- ②アジア諸国における JIS 認証システム導入のための試験機関候補
- ③試験機関候補の技術力の調査と評価
- ④サプライチェーンを含めた技術的課題抽出と解決策の策定
- ⑤日本の溶接関連企業（電溶機、溶材）のアジア諸国における競争力
- ⑥JIS 溶接技能者認証システム普及による日本の溶接関連企業の競争力向上への影響

調査はニーズが高いインドネシア、ベトナム、ミャンマーとし、対象は現地溶接関連機関、現地関連企業（日系企業を含む）及び加工業者に加え、日本の溶接機メーカー・溶接材料メーカー、現地人材送り出し機関、国内の受入団体等とします。本調査結果に基づき現地導入計画を立案し、2021 年度からの導入作業へつなげる計画です。

以上